

「持続可能な観光」関連図書リスト

(旅の図書館蔵書)

書名	著者名	出版社・出版年
 <p>『<b>エコツーリズムと持続可能な開発 楽園はだれのもの?</b>』 Ecotourism and sustainable development Who owns paradise? Second Edition 持続型観光(サステナブル・ツーリズム)の代表ともいえるエコツーリズムの置かれた状況を真正面から見据え、エコツーリズムの課題と本来目指すべきものを描きだす。数あるエコツーリズム関連本の中で出色の一冊。</p>	<p>マーサ・ハニー 著 高梨洋一郎・真板昭夫 監修 赤間亜希・奥野玉紀ほか訳</p>	<p>くんぷる 2016年</p>
 <p>『<b>観光まちづくりのエンジニアリング</b>』観光振興と環境保全の両立 観光促進による旅行者の増加は、様々な地域環境の悪化を引き起こす。観光地の交通計画、ごみ・トイレ対策、水環境保全、景観整備など、旅行者の快適な観光と、地域住民の生活環境の向上につながるインフラ整備の技術的知識をわかりやすく解説。</p>	<p>安島博幸 監修 国土総合研究機構 観光まちづくり研究会 著</p>	<p>学芸出版社 2009年</p>
 <p>『<b>自然保護とサステナブル・ツーリズム</b>』実践的ガイドライン 自然そのものを観光のメインとする保護区などでは、持続的に自然の価値を守るこそが、観光や地域の発展につながる。IUCN(国際自然保護連合)がすすめる実践的「ガイドライン」。海外各地の先進的な事例が満載。</p>	<p>ポール・F・J・イーグルズ、 ステファン・F・マックール、 クリストファー・D、ヘインズ 著 小林英俊 監訳</p>	<p>平凡社 2005年</p>
 <p>『<b>Reframing Sustainable Tourism</b>』 Reframing Sustainable Tourism Dordrecht 観光における「サステナブル」の新たな概念の必要性を考察し、またそれをコミュニティや民間事業者・保護地区担当者に応用するにあたり再考すべき枠組みに目を向けた一冊。実用的応用がなされた事例も効果的に取り上げられている。</p>	<p>Stephen.F.McCool, and Keith Bosak</p>	<p>Springer 2016年</p>
 <p>『<b>Sustainable Tourism Management</b>』 Sustainable Tourism Management. Oxfordshire 本書はサステナブル・ツーリズムの実践とマネジメントに光をあて、様々な事例を取り上げながら、観光の多様な分野や世界各地のサステナブル・ツーリズムの幅広い定義を紹介している。環境保全に留まらず、経済・社会的側面から観光が「サステナブル」である方法を探求。</p>	<p>Johon Swarbrooke</p>	<p>CABI Publishing 1998年</p>
 <p>『<b>TOURISM AND DEVELOPMENT</b>』 Tourism and Development. Los Angeles 観光研究の重要な分野における知識と議論に貢献した主要論文を通し、観光と開発について例示した4巻のうちの一巻。本書では観光と開発の関係性について知ることを軸に、「サステナブルな開発」という概念の理解を基に「サステナブルな観光開発」を探る。</p>	<p>Richard Sharpley</p>	<p>SAGE Publications Ltd 2015年</p>
<p><b>サステナブル・ツーリズム国際認証 熊野フォーラム 記録集</b> (平成26年度 地球環境基金助成事業)</p>	<p>NPO法人 日本エコツーリズム センター</p>	<p>NPO法人日本エコ ツーリズムセンター 2015年</p>
<p><b>Economics of Sustainable Tourism</b></p>	<p>Cerina, Fabio Markandya, Anil</p>	<p>Routledge 2015年</p>
<p><b>生物多様性と保護地域の国際関係 対立から共生へ</b></p>	<p>高橋 進</p>	<p>明石書店 2014年</p>
<p><b>Planning for Tourism, Leisure and Sustainability: International Case Studies</b></p>	<p>Travis, Anthony S</p>	<p>C a B Intl 2011年</p>
<p><b>サステナブル・スイス—未来志向のエネルギー、建築、交通</b></p>	<p>滝川 薫</p>	<p>学芸出版社 2009/05</p>
<p><b>観光地の持続的発展とまちづくり</b></p>	<p>溝尾良隆</p>	<p>溝尾良隆 2007年</p>
<p><b>開発と環境保護の国際比較 観光政策の視点から</b></p>	<p>朝水宗彦</p>	<p>嵯峨野書院 2007年</p>
<p><b>私たちの世界遺産① 持続可能な美しい地域づくり</b></p>	<p>五十嵐 敬喜 アレックス・カー</p>	<p>公人の友社 2007年</p>
<p><b>小笠原エコツーリズム推進マスタープラン</b> ~「持続可能な島づくり」を目指して~</p>	<p>小笠原エコツーリズム 推進委員会</p>	<p>小笠原エコー リズム推進委員会 2004年</p>
<p><b>観光と環境の社会学</b></p>	<p>古川 彰 編</p>	<p>新曜社 2003年</p>

書名	著者名	出版社・出版年
観光につける薬 サステナブル・ツーリズム理論	島川 崇	同友館 2002年
Sustainable Development of Tourism - A Compilation of Good Practices	WTO	WTO 2000年
Plan and develop ecologically sustainable tourism operations	Meaghan Newson	South west institute of tafe 2000年
持続可能な観光と地域発展へのアプローチ	塚本 圭一	泉文堂 1999年
Guide for Local Authorities on DEVELOPING Sustainable Tourism	WTO	WTO 1998年
TOURISM 2000 Building a Sustainable Future for Asia-Pacific FINAL REPORT ASIA PACIFIC MINISTERS' CONFERENCE ON TOURISM AND ENVIRONMENT and the High Level Technical Seminar on Sustainable Tourism Development	WTO	WTO 1997年
RURAL TOURISM: A Solution for Employment, Local Development and Environment	WTO	WTO 1997年
21世紀の観光開発に関するシンポジウム 「持続可能な観光を目指して」報告書	国際観光 開発研究センター	国際観光 開発研究センター 1996年
Planning for a sustainable environment : A Report by the Town and Country Planning Association	Andrew Blowers	Earthscan Pubns Ltd 1993年
Sustainable tourism in Europe's Nature and National Parks Loving them to death?	FNNPE	FNNPE 1993年

公益財団法人 日本交通公社  
出版物のご案内



『温泉まちづくり 2016年度 温泉まちづくり研究会 総括レポート』(発行:2017年3月)

温泉まちづくり研究会は、まちづくりに熱心に取り組む温泉地が集まり、温泉地共通の課題について解決方法を探り、全国に情報発信することを目的に2008年に発足しました。この「総括レポート」は2016年に開催した3回の研究会の内容を取りまとめたものです。第1回(7月)は、黒川、湯布院、道後の各温泉の、熊本地震発生後の状況についてお話を伺うとともに、研究会で今後考えていくべきテーマについて議論を深めました。第2回(10月)は、5月のG7伊勢志摩サミット開催地となった鳥羽温泉郷を会場に、今後の温泉地での国際MICE開催に際しての知見として、サミット開催地に求められた対応、課題とその対応策、開催効果、開催後の展開などについて議論や情報共有を行いました。第3回(1月)は、「温泉地の観光推進組織(DMO)を考える」と題して、DMOの基本的な役割や海外の現況、会員温泉地での取り組み状況、今後の取り組み推進に向けた課題や対応策などについて討議しました。A4判、94ページ、本体価格1500円+税



『平成28年度 観光地経営講座 講義録』(発行:2017年3月)

講義録としては3冊目となる本書では、我が国の観光地の基本的かつ長年の課題である「滞在化」に焦点を当てています。「滞在化」は地域特性によって多様な形態があり、地域側に求められる対応策もさまざま。本書では、全国各地の多様な課題認識に応えられるよう、スキーリゾート(倶知安町)、高原リゾート(軽井沢町)、温泉地(別府市)、まちなかの空き家の活用(尾道市)という4つの事例を取り上げ、現場での実践者と学識研究者の双方を講師にお招きし、解説していただいています。A4判74ページ/本体価格1,000円+税

『観光文化』バックナンバーのご案内 180号(2006年11月発行)からはPDF版をホームページで公開しています。  
169号(2005年1月発行)以降のものは、アマゾンamazon.co.jpで、印刷・販売しています。



234号(2017年7月発行) 特集: デスティネーション・マネジメントの潮流

DMOはデスティネーション・マネジメント(Destination Management)およびデスティネーション・マーケティング(Destination Marketing)を担う組織とされ、観光による地域振興の司令塔として期待されている。もともと、マネジメントもマーケティングも企業経営用語であるが、地域を企業に置き換えれば解るようにマネジメント(経営・管理)あつてのマーケティングである。しかしながら、デスティネーション・マネジメントの概念の誕生や変遷については、必ずしも共通の理解となっていない。そこで、本概念の定義や実態について、学術面、実践面の両面から整理を行い、わが国における展開と方向について検討してみる。A4判58ページ/本体価格1,000円+税



233号(2017年4月発行) 特集: 外国人観光客の消費を地域経済活性化につなげるに

訪日外国人市場の成熟化やLCCなどの登場で今後はFITが進展し、地方への訪問頻度が増えることが予想される中、外国人観光客の消費を地域経済活性化に結び付けるという視点が重要となります。本特集ではこうした視点に立ち、インバウンド先進観光地の中長期的な動向と施策の変遷(特集2)や、観光地での消費活動別に先進的な事例(特集3)を整理しました。また、「ジャパンガイド」の編集長であるシャウエッカー氏へのインタビューを行い、「着地」と「発地」の両面から考察を行いました。A4判64ページ/本体価格1,000円+税。